

2022年度東京大学鎌倉淡青会公開セミナー

実施日2022年11月29日

近未来の日本社会とその在り方

東京大学名誉教授

養老孟司

2038年に予想されている南海トラフの地震に伴って、かなりの災害が来ると予想されます。京大の藤井聡教授は1410兆円の損害という試算を述べておられます。その時以降の日本社会の設計について、単純な私見を述べ、皆様のご意見を伺いたいと思っています。災害の規模も不明なうちに、「その後」を論じるのはどうかと思いますが、基本的にはいわゆる環境問題を十分に考慮すべきだということです。自給自足体制で分散した小規模の自治体の集合としての日本を具体的に考えてみたらいかがかと思っています。環境問題の一部として、昆虫についていうなら、英国の昆虫学者デイヴ・グールソンは著書『サイレント・アース』の中で、1990年ごろから現在にかけて昆虫の数が八割から九割減少していると述べています。いわゆる自然保護区域も例外ではありません。

